

ICT端末を活用した 家庭学習の手引

手引の内容

- 1 自ら学び続ける
子どもの育成を目指して
- 2 1人1台端末を活用
した家庭学習の姿
- 3 授業×1人1台端末×
家庭学習
- 4 1人1台端末の活用
に向けた注意点



令和5年6月

北海道教育委員会

1 自ら学び続ける子どもの育成を目指して

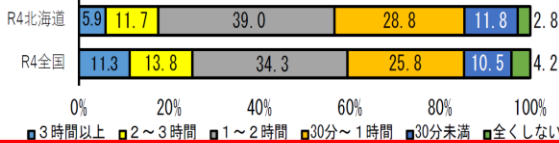
子どもたちがこれからの時代を生きていく力を身に付けるためには、子どもたちが自ら学び続けていくことができるよう、学校での学習指導の充実と家庭学習の習慣化が大切です。

北海道の子どもたちの家庭学習の状況

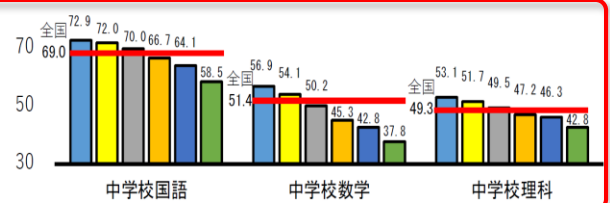
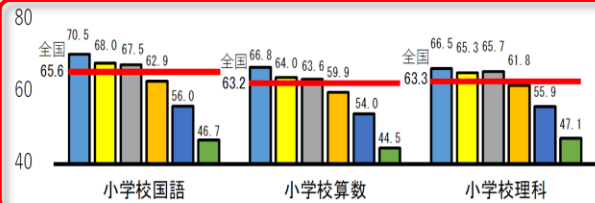
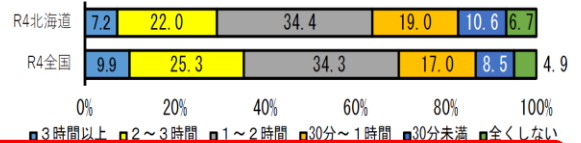
令和4年度全国学力・学習状況調査では、次のような調査結果が出ています。

「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」（児童生徒質問紙）

小学校



中学校



家庭学習が習慣化している子どもの方が各教科の平均正答率が高い傾向にあります。



「家庭学習」ってなぜ必要？

家庭学習には、「自分で学習課題を見付け、学び続ける力を育てる」自主学習としての側面と、「学習内容の定着を図る」宿題としての側面があります。

子どもたちの発達の段階に応じて、宿題の取組に加えて、自分に必要な学習内容を考える自主学習を取り入れ、段階的に質や量の充実を図ることが大切です。



ICTを学習で使うと？

ICTには、たくさんの情報を自由に扱ったり、遠く離れた場所の人と情報をやり取りしたりできるなどのよさがあります。

特に、課題解決に必要な情報を調べたり、考えを発信したりするなど、子ども一人一人の適性や興味・関心に応じた学習、自分が立てた課題を解決する学習などで効果を発揮します。

家庭学習



ICT



自ら学び続ける
子ども

2 1人1台端末を活用した家庭学習の姿

1人1台端末を活用して、家庭学習を学校の授業と結び付けることにより、子どもたちの学びは一層深まります。

子ども 個別で学習できる内容を家庭学習として行うことで、学校の授業では友達との協働的な学びに十分な時間を充てることができます。

教員 クラウドサービスを活用することで、子どもたちの家庭学習の取組に対して適切で効率的な支援が可能になります。

ノートのデジタル化で即時のフィードバック

取り組んだノートの共有

児童生徒 **教師からの即時のフィードバック** **教師**

ノートをデジタル化して共有すると、教師が書き込んだコメントが反映されるため、家庭においても、子どもたちはフィードバックを得られます。

また、共有したノートを子どもたちが互いに参考にしたリ、コメントやアドバイスを交わしたりすることで、家庭学習の充実にもつながります。

家庭学習カードのオンライン化

オンラインカード

11月 オンラインカード 閲覧

期間なし

①学習時間を入力しましょう。
②日記を書きましょう。
③提出しましょう。

*期間がありましたら、限定コメントを

期間	学習時間	一言日記	提出
11月	0:00		
11月	0:00		
11月	0:00		
11月	0:00		
11月	0:00		
11月	0:00		

表計算ソフトで作成した家庭学習カードをクラウドで共有することで、学習の予定や家庭学習の取組時間、一言日記などを記録することが可能になります。

家庭では、こうした記録を基に、子どもたちの学習状況を把握したり、取組に対して支援したりすることが容易になります。

学習カードや家庭学習用のワークシートの配信

1008 課題「文明開化を学び、生活様式が大きく変わる現代社会について考えよう。」

3.1 フォントの指定
3.2 印刷の指定
3.3 印刷の指定
3.4 印刷の指定
3.5 印刷の指定
3.6 印刷の指定
3.7 印刷の指定
3.8 印刷の指定
3.9 印刷の指定
3.10 印刷の指定

グループで協働学習を行う際、授業の導入時に学習カードのひな形を配信することにより、子どもたちは共同編集しながら話し合いを深めることができます。

同様に、教師が家庭学習用のワークシートを配信することにより、家庭でも端末を使って調べたり、友達と協力して課題に取り組んだりすることができます。

付箋操作のオンライン化



クラウド上のホワイトボードで付箋を操作する作業を共同編集で行うことにより、協力して情報を集めたり、整理・分析したりすることができます。

家庭では、子どもたちが課題に対する個人の考えを事前に記入し、次の授業の準備を行うことができます。

参考：「StuDX Style」家庭でのICT端末活用の実践事例×StuDX Style（文部科学省） https://www.mext.go.jp/content/20220901-mxt_kyoiku01-000024782-1.pdf

* 日頃から、持ち帰った1人1台端末を活用して家庭学習を行うことは、臨時休業等の非常時における学びの継続を円滑に行うことにつながります。
* 家庭に限らず、公民館や図書館、放課後児童クラブなど様々な場所で1人1台端末が活用できるようになるなど、子どもたちの学びを支援する取組が広がっています。



3 授業×1人1台端末×家庭学習

子どもたち自らが自主的に家庭学習を進めていくことができるよう、授業と家庭学習との関連を図ることが大切です。

① 「課題の設定」の場面

授業での取組

比較できる資料を提示するなどし、子どもたちが自ら課題をもち、計画的に課題解決に取り組むことができるようにします。



家庭学習でも



思いついた解決策を、クラウド上に残しておこう。

解決に向けて、学習活動の計画を立てておこう。



② 「情報収集」の場面

授業での取組

情報収集や蓄積の仕方、活用方法を指導し、子どもたちが必要な情報を収集し活用できるようにします。



家庭学習でも



教科書や資料集の内容をクラウド上にまとめておこう。



放課後に地域の人に取材をしたデータを保存しよう。



④ 「まとめ・表現」の場面

授業での取組

まとめや発表の練習の様子を画像や動画等でクラウド上に蓄積し、子どもたちが自ら振り返ることができるようにします。



家庭学習でも

相手に伝わりやすいように、発表原稿の構成を変えよう。



③ 「整理・分析」の場面

授業での取組

情報を整理・分析したことをクラウド上に蓄積し、子どもたちが個々の学びを共有できるようにします。



家庭学習でも



〇〇について、〇〇さんに尋ねてみるために、もう少し調べよう。

〇〇さんの分析の仕方を参考にして、自分のまとめに生かそう。



4 1人1台端末の活用に向けた注意点

学校や家庭で1人1台端末を活用するに当たっては、健康への影響に配慮するとともに、子どもたち自らが健康に留意しながら、ICTを活用しようとする意識を高めることが大切です。

目を画面から30cm以上離して使う

- よい姿勢を保ち、机と椅子の高さを正しく合わせましょう。

長時間にわたって継続して画面を見ない

- 30分に1回は、20秒以上、画面から目を離し、遠くを見ましょう。
- 目が乾かないよう意識的に時々まばたきをしましょう。

部屋の明るさに合わせて、画面の明るさなどを調整する

- 夜に自宅で使用する際には、昼間に学校の教室で使用するよりも、明るさ（輝度）を下げましょう。
- 画面の反射や画面への映り込みを防止するために画面の角度や明るさを調整しましょう。

時間や学習内容を決めて使う

- 例えば、「寝る1時間前には使用を控える」など、家族と一緒にルールを決め、学習計画を立てた上で活用しましょう。

1人1台端末を持ち帰る場合、その重さによる子どもたちの身体への負担も増えるため、発達の段階に応じて、携行品の重さや量に配慮することが大切です。

家庭学習に必要な学習用具のみを持ち帰る工夫

網走市立網走小学校

本校では、ICT端末の日常的な活用に向けて、ICT端末は原則毎日持ち帰ることとともに、学校に置いておく学習用具を明確に示し、保護者や児童に周知しています。

〔保護者への周知内容（抜粋）〕

- 全学年対象

【学校保管】

全教科の教科書、ノート

※自分の机の中や、教室内の棚、ファイルボックス等に保管します。

【毎日持ち帰るもの】

クロームブック、国語・算数のドリル、宿題に関係するもの、家庭学習で使うもの

デジタル教科書等を活用した家庭学習の実施

新得町立屈足中学校

本校では、生徒が家庭学習に必要な教科書等の教材の画像データをICT端末に保存し、持ち帰る学習用具は必要なもののみとしています。



〔学習用具の持ち運びに関する道内の学校の実践例〕

<https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kyouikukatei/page.html>

